

鴨下環境大臣のダボス会議出席結果について

- 1 . 鴨下環境大臣は、1月26日(土)に、スイスのダボスにおいて開催中の世界経済フォーラム年次総会(通称「ダボス会議」)に出席。
- 2 . 鴨下大臣は、地球温暖化問題に関する公開フォーラムに、UNEP事務局長、中国の環境問題の専門家、ブラジルやスイスの企業人とともにパネリストとして参加し、地球温暖化問題に対する先進国と新興国の対策の隔たりをどのように埋めるべきかという点やバイオ燃料の温暖化対策の位置づけなど、広範な話題について討論を行った。
特に、鴨下大臣は、COP13で合意されたバリロードマップの歴史的な評価を行うとともに、G8議長国としての日本がリーダーシップを発揮していくこと、安全保障という観点からも温暖化問題が重要性を増している中で、コベネフィット・アプローチのように支援される国の状況をも考慮した形で途上国支援や技術移転を行うことが重要であること等について発言した。
- 3 . また、このパネルディスカッションに先立ち、G8議長国の首相として地球温暖化対策の新しい提案を行った福田総理の特別講演に同席するとともに、世界のトップ企業の会長や社長から構成される国際ビジネス・カウンシル(IBC)との昼食会(非公開)に参加し、意見交換を行った。

(参考) 公開フォーラム Climate Change Divide の概要

日時：平成20年1月26日(土) 15:30から17:00

場所：スイス・アルペン・ハイスクールの講堂

聴衆：ダボス会議参加者及び一般参加(およそ300人)

司会者：ソニヤ・ハスラー(スイステレビのニュース・キャスター)

パネリスト：鴨下一郎(日本/環境大臣)

アキム・シュタイナー(国連環境計画事務局長)

C.S.キャアン(中国/北京大学環境基金理事長)

ルイズ・フェルナンド・ファーラン(ブラジル/ガルフ社会長)

クリスチャン・マンザラー(スイス/リ社リスク担当重役)

テーマ：Climate Change Divide 温暖化対策における先進国と途上国の隔たり

温暖化対策における先進国と新興国間の隔たりを埋めるにはどうすればよいか。どうすれば途上国を巻き込むことができるか。

先進国の温暖化対策はどれだけ効率的か。各国はカーボン・ニュートラルな社会へと移行すべきか。そうであれば、どのような手段があるか。

バイオ燃料などの代替エネルギー源の開発の意義はどのようなものか。